

職員ワークショップ

実施報告

平成 27 年 11 月

| | |
|--------------------------|----|
| 1. 職員ワークショップ実施概要..... | 1 |
| 2. 各回の検討内容..... | 2 |
| 3. 「地域づくり」グループの検討結果..... | 4 |
| 4. 「人の流れ」グループの検討結果..... | 10 |
| 5. 「若い世代」グループの検討結果..... | 16 |
| 6. 「雇用」グループの検討結果..... | 23 |

1. 職員ワークショップ実施概要

(1) 実施回数と検討内容

- ・ 3回開催し、以下の内容について検討を行った。
- ・ 各回の検討成果を二宮町総合戦略に反映するため、検討は二宮町総合戦略の項目に沿って行った
- ・ なお、第2回と第3回は同じテーマについて議論したため、この2回の成果は第3回終了後にまとめた。

| | 第1回 (8/17) | 第2回 (9/28) | 第3回 (10/6) |
|------|--------------------------|--|--|
| 検討内容 | 成果指標の検討を通じてテーマ別の基本目標を考える | 第1回でまとめた基本的方向を踏まえ、具体的な施策と重要業績評価指標 (K P I) の職員案を提案する① | 第1回でまとめた基本的方向を踏まえ、具体的な施策と重要業績評価指標 (K P I) の職員案を提案する② |

(2) 対象者

- ・ 所属長の推薦を受けた職員：32人
- ・ 次の4グループ（各8名）に分かれて検討を行った。なお4つのグループの検討内容は、二宮町総合戦略の基本目標に対応するよう設定した

【グループ】

- 地域づくり：基本目標1「安心な暮らしを守り、住み続けられる地域をつくる」に対応
- 人の流れ：基本目標2「二宮の強みを活かした新しい暮らしを提案し、二宮への新しい人の流れをつくる」に対応
- 若い世代：基本目標3「若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶え、子育てを楽しめる環境をつくる」に対応
- 雇用：基本目標4「二宮町で安心して働き、仕事を生み出しやすい環境をつくる」に対応

| | 人数 | 出席状況 | | |
|----|-----|---------------|---------------|---------------|
| | | 第1回 (8/17) | 第2回 (9/28) | 第3回 (10/6) |
| 全体 | 32名 | 28名 | 27名 | 27名 |

2. 各回の検討内容

(1) 第1回：成果指標の検討を通じてテーマ別の基本目標を考える

- ・各グループで、以下のテーマに基づき、提案を検討・作成した。

【基本目標・基本的方向の検討】

二宮町が人口減少と地域経済縮小を克服し、まち・ひと・しごとの創生と好循環を確立するために、テーマについて今後5年間でどのような政策を推進すると良いと思いますか。

【数値目標の検討】

政策を推進することによって町民にどのような便益（アウトカム）がもたらされると思いますか。その便益を客観的に示す数値指標はどのようなものがよいか考えてみましょう。



- ・検討の結果、各グループから基本的方向の文案と数値目標案が示された。
- ・数値目標については、地域づくりグループから2個、人の流れグループから1個、若い世代グループから1個、雇用グループから5個の提案があった。

(2) 第2・3回：第1回でまとめた基本的方向を踏まえ、具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）の職員案を提案する

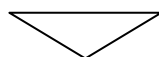
- ・各グループで、以下のテーマに基づき、提案を検討・作成した。

【基本的方向、数値目標、施策、施策の概要、KPI、事業の検討】

第1回でまとめた基本的方向に基づいて、事務局が提案した総合戦略（骨子たたき台）について次の視点から検証を行い、修正・調整が必要な場合は具体的な修正案をご提案ください。

【新規事業の提案】

基本目標を実現するために必要な新規事業をご提案ください。提案に当たっては、事業の実現性や費用対効果等を踏まえて議論し、その概要（考え方や具体的な内容のイメージなど）を整理してください。



- ・検討の結果、各グループから「具体的な施策と重要業績評価指標」案が示された。
- ・結果として各グループから以下の提案がなされた。

| グループ名 | 基本目標 基本的方向 数値目標 | 施策 | 新規事業・KPI |
|-------|-----------------------|----|--|
| 地域づくり | - | - | <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流拠点のプロデュース（創出） ・集合住宅等を活用した同世代コミュニティのプロデュース（創出） |
| 人の流れ | 提案あり | - | <ul style="list-style-type: none"> ・空き家を活用した町外転出者へのUターン支援 |
| 若い世代 | - | - | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの有料予防接種の無償化 ・一時預かりの拡充 ・放課後子ども教室の拡充 |
| 雇用 | - | - | <ul style="list-style-type: none"> ・起業支援 ・農業参入の支援 ・介護従事者への補助制度 ・資格職の女性就業支援 |

3. 「地域づくり」グループの検討結果

(1) 第1回検討結果

1) 検討の要旨

1. 基本目標・基本的方向の検討

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

- ・人口移動の傾向としては、結婚・就職を機に転出することが多く、出産を機に転入して入居することが多い。
→より子育てしやすい町とするにはどうするか。
- ・子育てしやすい町とするには、子ども会や子どもが遊べる場所が重要だが、前提としてこれらに地域が協力してくれることが必要である。そのためには、平時から多世代が交流できることが重要である。
→「義務」ではなく、多世代（子ども・子育て世代・高齢者）が「遊び」に行ける交流の拠点をつくる。
→交流拠点には公共施設や空き店舗、空き地なども活用する。
→地域のつながりにより暮らしやすい環境が生まれ、そのつながりが強くなることにより、防犯にも効果が期待できるのではないかと。
- ・百合が丘にある公社住宅の空き部屋の利用
→空き部屋が多く入居者を増やしたいが、既存のコミュニティを敬遠する方も多い。
→対象を絞り（子どもの年齢など）、複数世帯を募集するのはどうか。そうすることで、新規の同世代のコミュニティが醸成できる。また、これを何期かに分けて行うことで、複数のコミュニティの醸成が期待できる。
→このコミュニティにより、人口流出の防止につながるのではないかと。
→応募世帯には補助金・家賃の割引やリフォームなどの特典をつけ、また自治会への加入を条件としてつける。
- ・地区と地域の交流拠点とを結ぶような公共交通機関が必要となる。

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

- ①地域交流拠点のプロデュース（創出）（以下①）
- ②公社集合住宅（団地）を活用した同世代コミュニティのプロデュース（創出）（以下②）

2. 数値目標の検討

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

- ①・拠点はどのように配置するか。
→小学校3校と5地区に配置出来たらいい。
・運営は誰が行っていくか。
- ②・1回の募集の世帯数。
・何期かに分けて募集を行うが、何期の募集とするか。

(2) 検討の中で出された数値目標の項目（採用・不採用を問わず意見が出た項目すべてを羅列）

- ①・拠点数（学区単位、地区単位） ・運営数 ・交流者数 ・空き店舗活用数
・公共施設、空き地活用数
- ②・入居者数、部屋数 ・募集期数（コミュニティ数） ・空き部屋の減少数

(3) 本日の到達点 (まとめの方向性)

- ①・拠点数 (学区単位 3か所、地区単位 5か所) ・運営数 8か所
・交流者数 100名 ・空き店舗活用数 3か所 ・公共施設、空き地活用数 5か所
- ②・空き部屋の減少数 20%減少

3. 検討の中で出された施策・事業 (意見が出ていたら項目すべてを羅列)

- ・地域交流拠点のプロデュース (創出)
- ・公社集合住宅 (団地) を活用した同世代コミュニティのプロデュース (創出)
- ・各地区と地域交流拠点をつなぐバス路線の整備

2) 第1回の成果物「数値目標と基本的方向案」

数値指標

| 数値目標 | 基準値 (H26年度) | 目標値 (H32年度) |
|--------------------------|----------------|----------------|
| ・地域交流拠点数 | 0 | 8 |
| ・住宅供給公社集合住宅 (百合が丘) 空き部屋数 | 今後把握 | 20%減 |

基本的方向

- ・子育てがしやすい町を目指す際、重要となるのは地域とのつながりである。そこで、公共施設や空き店舗などを活用し、平時より多世代間の交流が図れる地域交流拠点を設置する。これにより、子どもが安全に遊べる場所の確保や、地域とのつながりの強化により、防犯にも効果が期待できる。
- ・百合ヶ丘の公社集合住宅は空き部屋が多い。これを減少させるために、新たな入居者を複数世帯募集し、応募者に対して補助金や家賃の割引を行う。募集をかける際には対象を設定 (子どもの年齢など) し、同世代がより近くに住むことで、新たなコミュニティの醸成が期待できる。更に応募者には自治会への入会を条件とするなど、既存のコミュニティの振興も図る。

(2) 第2・3回検討結果

1) 検討の要旨

第2回

1. 基本的方向・数値目標・施策・施策の概要・KPI・事業の検討

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄（意見が出た項目だけでよい）

全体

- ・同世代コミュニティのプロデュースに関し、幹事会での指摘を受け、公社に係る記載を削除した。

基本的方向

数値目標

- ・地域交流拠点の設置数を8→3に変更
- ・集合住宅等を活用した同世代コミュニティ数について新たに目標値を設定

施策・施策の概要

KPI

- ・集合住宅等を活用した同世代コミュニティの項目を「空き部屋数」から「コミュニティ数」に変更した

事業

(2) 検討の中で出された施策・事業（意見が出ていたら項目全てを羅列）

（◎：新規事業として提案、○：既存事業（拡充含む）、×：意見が出たが計画に入れない事業）

◎地域交流拠点のプロデュース（創出）（以下①）

◎集合住宅等を活用した同世代コミュニティのプロデュース（創出）（以下②）

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

幹事会からの指摘を踏まえ、上記事業について更に検討していく。

2. 新規事業の提案

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

①・交流拠点の具体的な場所・協力者の確保及び対象はどのようにするか

②・募集世帯数はどうするか→6世帯ではどうか

- ・まとまった空き部屋の確保
- ・対象の設定
- ・所有者との調整
- ・割引等の設定

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

同上

第3回

1. 基本的方向・数値目標・施策・施策の概要・K P I・事業の検討

(1) 検討の中で出された施策・事業（意見が出ていたら項目全てを羅列）

（◎：新規事業として提案、○：既存事業（拡充含む）、×：意見が出たが計画に入れない事業）

◎地域交流拠点のプロデュース（創出）（以下①）

◎集合住宅等を活用した同世代コミュニティのプロデュース（創出）（以下②）

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

基本的方向等に変更はないため、事業の検討を行った。

2. 新規事業の提案

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

①・必要に応じて空き家・空き店舗の所有者に固定資産税の減免等を行う

- ・協力者は一般公募とする
- ・準備資金は町より補助を行う
- ・具体的な拠点機能としては
→ミニ図書館、カフェ、フリースペースなど

②・1回の募集の世帯数→6世帯とする

- ・空き部屋の確保として、所有者との調整を行う
- ・応募者の対象 →幼稚園児～中学生のいる世帯
- ・応募条件の設定→自治会加入、居住年縛り（EX.5年）
- ・特典の設定 →家賃補助、フリーレントなど

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

上記について検討を行い、新規事業提案書としてまとめた。

2) 第2・3回の成果物「新規事業提案」

新規事業提案

①地域交流拠点のプロデュース(創出)

| | | | |
|-----------------|--|--------------|--------------|
| 関連する施策名 | (1) 地域コミュニティの醸成支援 | | |
| 関連するKPI | 数値目標 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) |
| | ・拠点数 | 0 | 3 |
| 事業概要 | <p>・子育てがしやすい町を目指す際、重要となるのは地域とのつながりである。そこで、空き家や空き店舗などを活用し、平時より子どもを中心とする多世代間の交流が図れる地域交流拠点を設置する。これにより、子どもが安全に遊べる場所の確保や、地域とのつながりの強化により、防犯にも効果が期待できる。</p> | | |
| 実施時期(想定) | 平成30年度～32年度 | | |
| 担当課(想定) | 企画政策課、町民課 | | |
| 備考(実現に向けての課題など) | <p>○必要に応じて空き家・空き店舗の所有者に固定資産税の減免等を行う</p> <p>○協力者は一般公募とする</p> <p>○準備資金は町より補助を行う</p> <p>○具体的な拠点機能としては</p> <p>・ミニ図書館 ・カフェ ・フリースペースなど</p> | | |

②集合住宅等を活用した同世代コミュニティのプロデュース（創出）

| | | | |
|-----------------|---|--------------|--------------|
| 関連する施策名 | (1) 地域コミュニティの醸成支援 | | |
| 関連するKPI | 数値目標 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) |
| | ・コミュニティ数 | 0 | 1 |
| 事業概要 | <p>・集合住宅等の空き部屋に対し、新たな入居者を複数世帯募集し、応募者に対して補助金や家賃の割引等を行う。募集をかける際には対象を設定（子どもの年齢など）し、同世代がより近くに住むことで、新たなコミュニティの醸成が期待できる。更に応募者には自治会への入会を条件とするなど、既存のコミュニティの振興も図る。</p> | | |
| 実施時期（想定） | 平成 32 年度 | | |
| 担当課（想定） | 企画政策課、町民課 | | |
| 備考（実現に向けての課題など） | <p>○1 回の募集の世帯数。 ・6 世帯とする</p> <p>○空き部屋の確保として、所有者との調整を行う</p> <p>○応募者の対象 ・幼稚園児～中学生のいる世帯</p> <p>○応募条件の設定 ・自治会加入 ・居住年縛り（EX.5 年）</p> <p>○特典の設定 ・家賃補助 ・フリーレント</p> | | |

4. 「人の流れ」グループの検討結果

(1) 第1回検討結果

1) 検討の要旨

1. 基本目標・基本的方向の検討

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

- ・定住促進については、人を呼び込むことに視点が行きがちだが、まずは流出抑制に目を向けていく必要がある。
- ・ハード面・ソフト面・魅力面等、何においても「普通」・「中途半端」だが、全てにおいて満点をとる必要はない。 ⇒財源的にも厳しい。

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

【流出抑制】

- ・郷土愛の創出（Uターン者の確保）
- ・定住するメリット(実生活面での経済的魅力等)となる施策の創出

【流入促進】

- ・定住するメリット(実生活面での経済的魅力等)となる施策の創出
- ・情報発信の強化

※他市町村が実施していることの充実を図っても、ブランド力(ネームバリュー)で劣るため、二宮独自の施策を打ち出していく。

2. 数値目標の検討

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

- ・流入を促進しつつ、いかに流出を抑制して現状を維持するかが課題。

(2) 検討の中で出された数値目標の項目（採用・不採用を問わず意見が出た項目すべてを羅列）

- ・近隣市町村への転出 現状より若干減。
- ・近隣市町村からの転入 現状より若干増。

(3) 本日の到達点（まとめの方向性）

- ・人口をこれ以上増やすことは難しく、また現状より増やす必要性はない。
- ・子育て世代の獲得(安定的な税収確保)が必要であれば、その世代に直結する施策を充実する。
- ・人口流出を防ぎ、Uターン者を取り込む。
- ・人口は現状維持が目標。

3. 検討の中で出された施策・事業（意見が出ていたら項目すべてを羅列）

- ・新築に対する固定資産税減免措置の延長(減免に代わる補助制度)など、住宅施策の実施。
- ・保育園、学童保育の充実（老人福祉施設での学童保育等を実施）
- ・学区廃止に伴う通学定期の補助。
- ・小児医療証が中3までになるが、1年間全く医療証を使用しなかった場合の補助（報奨金）。
- ・地域コミュニティの活性化及びその情報発信強化
- ・郷土教育の実施等
- ・Uターン者への特典制度

2) 第1回の成果物「数値目標と基本的方向案」

数値指標

| 数値目標 | 基準値 (H26年度) | 目標値 (H32年度) |
|---------|----------------|----------------|
| ・二宮町の人口 | 28,767人 | 28,767人 |

基本的方向

- ・町の人口については、現状維持が目標。近隣市町村への転出を減らし、転入を増やすことで、自然動態の減少を補う。
- ・そのためには、子育て世代への支援が重要と考えられ、新築に対する固定資産税の減免措置の延長やJRなどの通学定期の補助、保育園、学童保育等の子ども対策の充実などに取り組み、転出に歯止めをかけるとともに、新たな子育て世代の転入拡大を図る。

(2) 第2・3回検討結果

1) 検討の要旨

第2回

1. 基本的方向・数値目標・施策・施策の概要・K P I・事業の検討

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄（意見が出た項目だけでよい）

全体

- ・キャッチフレーズの『二宮の強み』とは何か？
- ・二宮 Style を基本的方向で位置づけしてあげないといけないのでは？

基本的方向

- ・当グループでは、子育て家庭・子育て環境にこだわらず、各世代の生活スタイルに合った内容にした方がよい
- ・Uターン希望者についても記載した方がよい
- ・ハード面ばかりあり、ソフト面が見えにくい
- ・受入側の支援制度をしっかりと確立した上で、プロモーション戦略をした方がよいのでは？
- ・里山・里地などの田舎をイメージするものに若者が魅力を感じるのか？
- ・観光によるまちづくりをしても、人口の増加にはつながりにくい。（例えば、外から吾妻山に来た人が、二宮町に住みたいと思うとは考えにくい。）

数値目標

- ・観光入込客は人口増加にはつながりにくいため変えた方がよい
- ・その代わりに二宮をPRできるホームページのアクセス数を代わりに加えては？

施策・施策の概要、K P I、事業

次回検討予定

(2) 検討の中で出された施策・事業（意見が出ていたら項目全てを羅列）

（◎：新規事業として提案、○：既存事業（拡充含む）、×：意見が出たが計画に入れられない事業）

次回検討予定

(3) 本日の到達点（まとめの方向性）

- ・キャッチフレーズを新しい「人の流れ」～家族×幸せ にのみや Style～に変更する
- ・数値目標では、観光入込客ではなくホームページのアクセス数を代わりに加え、基準値は10月1日現在のアクセス数とし、目標値は基準値の2倍のアクセス数とする
- ・基本的方向では、子育て世代の事だけでなく、元々の住民やUターン者の事も記載し、4項目を編集した上で2～3項目にまとめる。内容については第3回職員ワークショップにて継続検討する

2. 新規事業の提案

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

次回検討予定

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

次回検討予定

第3回

1. 基本的方向・数値目標・施策・施策の概要・KPI・事業の検討

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄（意見が出た項目だけでよい）

全体

- ・このグループは、他のグループに位置づけられている事業をいかに情報発信していくかに特化し、検討を進めるべきである。また、基本目標も2となっているが、1または4に変更すべき。
- ・そもそも「人の流れ」の焦点をどこにもっていくのか。“定住”が目的なのか“観光”が目的なのか？

基本的方向

- ・基本的方向については、別紙参照。

数値目標

- ・成果指標の項目の「社会移動数」を転入者と転出者に分けて記載する。（2段書き）
- ・成果指標の項目の「観光入込数」を「ホームページアクセス数」に置き換える。目標値は、基準値の2倍と設定する。

施策・施策の概要

- ・『「家族×幸せ 二宮 Style」の提案と発信』と『二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり』を一つの項目とする。（「また、公共施設でのW i f i 整備～」以降の文書を削除）
- ・『特色ある学校教育による知力・体力の向上』及び『二宮の自然環境を大切にする地域づくり』⇒それぞれ他グループへ移行（若い世代グループ及び地域づくりグループ）

KPI

- ・「二宮町の地域情報を得やすと答える人の割合（町民／町外）」を「ホームページのアクセス数」に変更する。

事業

- ・「二宮町の子育てサービス、住宅、環境、観光に関する総合的な情報提供」に変更する。
- ・「観光まちづくり推進事業」と「公共施設のW i f i 整備事業」を削除する。

(2) 検討の中で出された施策・事業（意見が出ていたら項目全てを羅列）

（◎：新規事業として提案、○：既存事業（拡充含む）、×：意見が出たが計画に入れられない事業）

- ・新規事業の提案なし
- ・（×）町をPRした「電車の中吊り広告」や「都心の駅等へ掲示するポスター」の作成。

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

- ・人の流れグループは、他グループの情報発信の基地となる。
- ・人の流れグループは、他グループの事業の再掲の場として位置付けた方がいい。

2) 第2・3回の成果物「基本目標・基本的方向」と「新規事業提案」

基本目標

新しい「人の流れ」を創出する ～家族×幸せ にのみやStyle～

基本的方向

- ・人口の減少傾向を抑制するために、「二宮町に住み続けたい」、「二宮町に戻ってきたい」、「二宮町に住んでみたい」と思ってもらえるような「にのみやStyle」を確立し、そのプロモーション戦略を推進することで、今までとは違う新たな「人の流れ」を創出し、自然動態の減少を補う。
- ・「にのみやStyle」を確立するためには、新たな魅力を創出する、または既存の魅力を活かしながら更に魅力を高めることに取り組み、様々な世代のライフスタイル・ライフステージに応じた定住支援施策や移住支援施策の展開を図る。

新規事業提案

①空き家を活用した町外転出者へのUターン支援

| | | | |
|-----------------|--|--------------|--------------|
| 関連する施策名 | (1)「家族×幸せ=にのみや Style」の提案と発信 | | |
| 関連するKPI | 数値目標 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) |
| | ・二宮町の人口 | 28,767人 | 28,767人 |
| 事業概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・町の人口については、現状維持が目標。近隣市町村への転出を減らし、転入を増やすことで、自然動態の減少を補う。そのためには、子育て世代への支援が重要と考えられ、新築に対する固定資産税の減免措置の延長やJRなどの通学定期の補助、保育園、学童保育等の子ども対策の充実などに取り組み、転出に歯止めをかけるとともに、新たな子育て世代の転入拡大を図る。 | | |
| 実施時期(想定) | | | |
| 担当課(想定) | | | |
| 備考(実現に向けての課題など) | <ul style="list-style-type: none"> ・定住促進については、人を呼び込むことに視点が行きがちだが、まずは流出抑制に目を向けていく必要がある。 ・ハード面・ソフト面・魅力面等、何においても「普通」・「中途半端」だが、全てにおいて満点をとる必要はない。⇒財源的にも厳しい。 ・子育て世代の獲得(安定的な税収確保)が必要であれば、その世代に直結する施策を充実する。 <p>【流出抑制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土愛の創出(Uターン者の確保) ・定住するメリット(実生活面での経済的魅力等)となる施策の創出 <p>【流入促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定住するメリット(実生活面での経済的魅力等)となる施策の創出 ・情報発信の強化 <p>※他市町村が実施していることの充実を図っても、ブランド力(ネームバリュー)で劣るため、二宮独自の施策を打ち出していく。</p> | | |

5. 「若い世代」グループの検討結果

(1) 第1回検討結果

1) 検討の要旨

1. 基本目標・基本的方向の検討

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

- ・待機児童0を目指す
- ・子育て費用が高いという町民アンケート。回答者の半数以上
- ・母親・子育てサポートが転入の決め手となっていない
- ・町民への情報発信を行っていく
- ・町ぐるみでの子育て
- ・空き家バンクの活用
- ・子育てサービスは他と比べても同等（例：3人目に100万円。婚活パーティ等→本当にやるべきか。）
- ・企業誘致による人口増
- ・大磯との合併によるブランド力の向上
- ・学校給食の実施（中学生までは県内でも珍しい）

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

- ・あまり細かい目標設定よりも、大きな枠での目標設定のが良いだろう。

2. 数値目標の検討

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

- ・アンケート結果を見ると32%がおおむね満足しているという回答。
→40%程度が妥当なのではないか。

(2) 検討の中で出された数値目標の項目（採用・不採用を問わず意見が出た項目すべてを羅列）

- ・50%
- ・45%
- ・出生率

(3) 本日の到達点（まとめの方向性）

- ・数値目標は40%ということで検討をする。幹事会等で検討をしてもらう。

3. 検討の中で出された施策・事業（意見が出ていたら項目すべてを羅列）

- ・出産祝金の支給
- ・婚活パーティの実施
- ・学童保育の充実

4. 成果物

○基本目標・基本的方向）：

より結婚、出産、子育てのしやすい環境を整備するため、制度の拡充を検討しつつ、実施している各種施策は他自治体に決して劣るものではないことから、その情報発信に努める。

○検討の要旨：この表のとおり

○数値目標：現状のアンケート値32%に対し、目標値は40%に設定。

2) 第1回の成果物「数値目標と基本的方向案」

数値指標

| 数値目標 | 基準値 (H26年度) | 目標値 (H32年度) |
|---------------------------------|----------------|----------------|
| ・安心して結婚・出産・子育てできる社会になっていると思う人の数 | 32% | 40% |

基本的方向

- ・子育て支援については、近隣市町村と比較しても同等以上の水準であると思われる。支援制度の充実についての検討は続けていく必要があるが、小児医療制度などについては、自治体のサービス合戦となっている感が否めない。子育て世代現時点で高水準を維持している子育て支援策についての情報発信を強化することが重要である。
- ・コンパクトな町ならではの隣近所の顔の見える関係性から生じる子育てのしやすさは、都市部には無い魅力であり、町のひとつひとつの施策以上に発信すべき情報である。
- ・結婚・出産についての独自施策は、過疎化の進む地方で見受けられるが、一時的な助成が多く、町の魅力を高める施策としてどの程度有効か検討が必要である。

(2) 第2・3回検討結果

1) 検討の要旨

第2回

1. 基本的方向・数値目標・施策・施策の概要・K P I・事業の検討

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄（意見が出た項目だけでよい）

□数値目標

- ・合計特殊出生率 H32に1.54は難しいのでは？（H27現在1.19人）

□事業

- ・小児医療証を使用しなかった家庭への報奨金は、小児医療の趣旨に反するのではないか。
- ・老人福祉施設での保育については、同じ建物で介護、保育ができることは効率的。ただ、人員配置等が課題。

(2) 検討の中で出された施策・事業（意見が出ていたら項目全てを羅列）

（◎：新規事業として提案、○：既存事業（拡充含む）、×：意見が出たが計画に入れな
い事業）

- ◎一時預かり保育の充実（当日申し込み可）
- ◎有料予防接種の無料化
- ◎放課後子ども教室の拡充（民間への委託も検討？）

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

詳細については次回検討。

2. 新規事業の提案

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

- ・公共施設の統廃合
- ・1ヶ所の施設で全て済めば便利

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

- ・「子育て世代包括支援センター」を建て、子ども育成課の事業、一次預かり等を行う。
- ・駐車場も完備し、町民が利用しやすい施設を造る。（公共施設再配置）
→子育て関連施設だけでなく他の施設も入れる。

1. 基本的方向・数値目標・施策・施策の概要・K P I・事業の検討

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄（意見が出た項目だけでよい）

□全体

子育て世代包括支援センター、子どもの予防接種無償化、小児医療証未使用世帯への補助、定期券補助、一時預かりの充実

□基本的方向

子育て世代包括支援センターは、事業内容自体が子ども育成課で補えており、施設を安易に新築するのではなく、今ある施設を有効活用していく。

子どもの予防接種無償化や小児医療証未使用世帯への補助等は、現在の制度や制度の変遷等を考慮して慎重に進めていく。

□数値目標

子どもの予防接種無償化については、項目が「健診の受診率」では不相当であるので、「子育て環境に対する町民評価」か新規で項目を増やす。

(2) 検討の中で出された施策・事業（意見が出ていたら項目全てを羅列）

(◎：新規事業として提案、○：既存事業（拡充含む)、×：意見が出たが計画に入れない事業)

◎子育て世代包括支援センター、◎子どもの予防接種無償化、○一時預かりの充実、○定期券補助、×小児医療費を1年使用しなかった家庭への補助

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

定期券補助：支給対象となる費用が定期券自体の費用とするのか、学費への補助にするかという意見が出た。要検討。

一時預かりの充実：事前予約ではなく、当日預かり可能なものにする。

2. 新規事業の提案

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

子育て世代包括支援センター：5年10年内での建設は、困難。

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

子育て世代包括支援センター：当面は、保健センターを拠点に子育て事業を展開。

小児医療費を使用しなかった世帯への報奨金：小児医療証というものは、所得制限により小児医療証を発行されていない世帯があったり、診療を受けない事が偉いという認識を浸透させてしまう恐れがある。前述の理由に加え、安易な診療を避けさせることを踏まえ、小児医療証を使用しなかった子どもが多いことをPRし、健康的で安全な町ということを知らせる。

2) 第2・3回の成果物「新規事業提案」

新規事業提案

①子どもの有料予防接種の無償化

| | | | |
|-----------------|--|--------------|--------------|
| 関連する施策名 | (1) 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり | | |
| 関連するKPI | 数値目標 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) |
| | | | |
| 事業概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの予防接種の実施は、若い世代の出産や子育てを支援する上で重要であるが、法定の予防接種が無償である一方、任意の予防接種は自治体によって費用の有無が分かれる傾向にある。この任意の予防接種全種を無償化することにより、若い世代の出産や子育ての負担を軽減し、定住促進を図る。 | | |
| 実施時期(想定) | | | |
| 担当課(想定) | | | |
| 備考(実現に向けての課題など) | <ul style="list-style-type: none"> ・現在行われている予防接種の種類や金額を調査し、必要な世帯がどのくらいあるのか、今後増えるのかを予測する必要がある。 ・上記予防接種をどの時期までに接種できるのか指標となる年間スケジュール表があると周知に便利。 | | |

②一時預かりの拡充

| | | | |
|-----------------|--|--------------|--------------|
| 関連する施策名 | (1) 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり | | |
| 関連するKPI | 数値目標 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) |
| | ・子育て環境に対する町民の評価(加重平均) | 0.18 | 要検討 |
| 事業概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 若い子どもがいる子育て世代にとって、仕事や疾病により、一時的にでも急ぎ子どもを何処かへ預けなければならない事態に陥ることがある。保育園等で当日の空き状況によって緊急的に子どもを預けることを可能にし、働く親などに対して理解のある自治体との認識を定着させることで、若い世代の定住に繋げていく。 | | |
| 実施時期(想定) | | | |
| 担当課(想定) | | | |
| 備考(実現に向けての課題など) | <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような登録方法・申込方法を実施するのか。 ・ 疾病のある子どもが来た場合の対応をどうするのか。 ・ 適正な利用者負担の設定 | | |

③放課後子ども教室の拡充

| | | | |
|-----------------|---|--------------|--------------|
| 関連する施策名 | (1) 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり | | |
| 関連するKPI | 数値目標 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) |
| | ・子育て環境に対する町民の評価(加重平均) | 0.18 | 要検討 |
| 事業概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・働く親にとって、子どもの下校から自身の帰宅までの時間帯に子どもたちが安心して遊べる場所があると様々な面で安心できる。また、子どもに対してただ遊びを促すだけでなく学習等を実施・拡大することによって、子どもにとっても有意義な経験となる。このような親子揃ってプラスになる施策への受入人数や実施時間の拡大、学習内容の拡充を図ることによって就学児童を抱える世代・就学児童をこれから抱える世代に対して誘致を図る。 | | |
| 実施時期(想定) | | | |
| 担当課(想定) | | | |
| 備考(実現に向けての課題など) | <ul style="list-style-type: none"> ・実施施設の確保と理解 ・対応可能な実施時間の確保 ・運営に携わる主管課正規職員の増員 ・適正な利用者負担を伴った民間(学習塾等)委託の検討 | | |

6. 「雇用」グループの検討結果

(1) 第1回検討結果

1) 検討の要旨

1. 基本目標・基本的方向の検討

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

- ・扶養の範囲内で働きたい女性が多いのでは
- ・農業は収入が不安定
- ・就業希望者と求人側との条件が合わない（ハローワーク的？なマッチングや、コーディネーターの機能がない）
- ・農業のイメージと現実とのギャップ

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

- 高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して住み続けられるよう就業機会の創出や生活支援（介護従事者等の雇用の促進）に取り組む。
- 女性に対する就職相談・求人情報提供等を通じた（資格を持った女性も多い）、きめ細かな就職支援の取り組み。
- 特産品の安定供給や、普及の促進、商工会議所やシルバー人材センター等との協働による町内での起業支援や人材の有効活用に取り組む。

2. 数値目標の検討

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

どうやって目標値を設定するのか。またその根拠。

(2) 検討の中で出された数値目標の項目（採用・不採用を問わず意見が出た項目すべてを羅列）

- ・町内起業件数
- ・介護・福祉従事者数
- ・高齢者の就業機会の創出
- ・農業参入
- ・資格職の女性の就業者

(3) 本日の到達点（まとめの方向性）

同上（意見採用のみ）

3. 検討の中で出された施策・事業（意見が出ていたら項目すべてを羅列）

- ・福祉人材へ補助金制度
- ・シルバー人材センターへの新たな補助
- ・ショッピングコーディネーター
- ・農業の法人参入
- ・創業コーディネーター
- ・農業の6次産業化
- ・起業補助金
- ・農業の機械購入補助

2) 第1回の成果物「数値目標と基本的方向案」

数値指標

| 数値目標 | 基準値 (H26年度) | 目標値 (H32年度) |
|------------------|----------------|----------------|
| ・ 町内起業件数 (人) | | 5件 (人) |
| ・ 高齢者の就業者増 | | 30人 |
| ・ 資格職の女性就業者増 | | 100人 |
| ・ 介護従事者増 | | 30人 |
| ・ 農業参入 (法人・個人) 増 | | 4件 (人) |

基本的方向

- ・ 高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して住み続けられるよう就業機会の創出や生活支援（介護従事者等の雇用の促進）に取り組む。
- ・ 女性に対する就職相談・求人情報提供等を通じた（資格を持った女性も多い）、きめ細かな就職支援の取り組み。
- ・ 特産品の安定供給や、普及の促進、商工会議所やシルバー人材センター等との協働による町内での起業支援や人材の有効活用に取り組む。

(2) 第2・3回検討結果

1) 検討の要旨

第2回

1. 基本的方向・数値目標・施策・施策の概要・K P I・事業の検討

(1) 検討の中で出された施策・事業（意見が出ていたら項目全てを羅列）

（◎：新規事業として提案、○：既存事業（拡充含む）、×：意見が出たが計画に入れな
い事業）

◎起業支援 異業種交流会や空き店舗家賃補助 HP作成（ICT）

◎農業参入の支援 耕作放棄農地の活用 担当窓口設置 農漁商工民連携

◎介護従事者の補助制度 ヒアリング-研究-実施

◎資格職の女性就業支援 職業訓練校とタイアップ 人材バンク

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

×農業の法人化支援、×農業の6次産業化、×機械購入補助は削除

2. 新規事業の提案

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

- ・補助金の交付要件や額の設定等
- ・空き農地の把握及び調整
- ・総合支援の担当窓口設置や各課連携
- ・必要な補助の特定
- ・職業訓練校との調整
- ・補助金交付の要件検討

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

◎について提案書作成

第3回

1. 新規事業の提案

(1) 検討を進めるにあたって論点や課題となった事柄

現実的にトーンダウンすべき点の修正

(2) 本日の到達点（まとめの方向性）

【起業支援】は中小企業支援事業の、【農地参入の支援】は、遊休・荒廃地対策事業の
中で補足的に実施する可能性もある。

2) 第2・3回の成果物「新規事業提案」

新規事業提案

①起業支援

| | | | |
|-----------------|--|--------------|--------------|
| 関連する施策名 | (1) 地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり | | |
| 関連するKPI | 数値目標 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) |
| | ・町内起業人数 | | 5 |
| 事業概要 | ・異業種交流会の開催（創業コーディネーター）や空き店舗家賃補助（企業補助金等）の交付を行う。起業支援HP立ち上げなどICTを活用した支援を行う。 | | |
| 実施時期（想定） | | | |
| 担当課（想定） | | | |
| 備考（実現に向けての課題など） | ・補助金の交付要件や額の設定等 | | |

②農業参入の支援

| | | | |
|-----------------|---|--------------|--------------|
| 関連する施策名 | (2) 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出 | | |
| 関連するKPI | 数値目標 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) |
| | ・農業（法人・個人）増 | | 4 |
| 事業概要 | ・耕作放棄農地の活用（農地バンク）の設置や農漁商工民の連携を図り農業の法人の誘致のPR等行う。 | | |
| 実施時期（想定） | | | |
| 担当課（想定） | | | |
| 備考（実現に向けての課題など） | ・空き農地の把握及び調整 ・総合支援の担当窓口設置や各課連携 | | |

③介護従事者への補助制度

| | | | |
|-----------------|--|--------------|--------------|
| 関連する施策名 | (2) 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出 | | |
| 関連するKPI | 数値目標 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) |
| | ・介護従事者の増 | | 30 |
| 事業概要 | ・介護従事者の人材不足を解消するため事業者及び就労者のヒアリングを行い、本当に必要な支援を研究し、具体的支援へ移行していく。 | | |
| 実施時期(想定) | 29年度までヒアリング及び研究、30年度から補助実施 | | |
| 担当課(想定) | | | |
| 備考(実現に向けての課題など) | ・必要な補助の特定 | | |

④資格職の女性就業支援

| | | | |
|-----------------|--|--------------|--------------|
| 関連する施策名 | (2) 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出 | | |
| 関連するKPI | 数値目標 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) |
| | ・資格職の女性就業者数増 | | 100 |
| 事業概要 | ・資格を持っていても雇用主と上手くマッチングできずに家庭にいる女性や家事や子育ての合間に就労を希望している方のため、人材バンクの設置や職業訓練校とのタイアップにより交通費の支給等の支援を行う。 | | |
| 実施時期(想定) | | | |
| 担当課(想定) | | | |
| 備考(実現に向けての課題など) | <ul style="list-style-type: none"> ・職業訓練校との調整 ・補助金交付の要件検討 | | |